



日吉町・中世木の民家

山下正子

# 泉 隆・病床日記(3)

自一九六八年七月一五日至九月二五日

**戦前、戦後、京都で「農民運動の父」といわれた泉隆さんは、今から二六年前肺癌で京都安井病院に入院、約半年間の闘病生活を送りましたが、遂にその年十二月二十二日京大病院で死去されました。享年六十六才でした。**

この間泉さんは死の床にありながら二つの文章を書きあげました。その一つが「会心の闘争」といって自伝的闘争記録で、先年「山宣研究」誌に既に発表されました。他の一つがこの「病床日記」です。

今回御家族の御了解を得て発表することにしました。最期の最期まで闘争心を忘れなかつた泉さんの生きざまに、私達は深く感動をおぼえるのです。紙面の都合で数回にわけて掲載します。(一九九四・四・二〇)

○八月一二日 晴

風はなく甚だ蒸し暑く頭がいたいやうで寝てばかりいた。アメリカが日本に侵畳の立場につつある論文を読みて頭が重く晴々としない。

山中君いつものやうに訪ねてくれるのは迎望の楽しみの一つだ。彼が居る間は何んぜか私は饒舌になる。

○八月13日 晴 火

紅岩を読み始める。晝頃高田さん訪ね色々ほしい物をきかれたので何か読むものをと返事した。遠方を度々訪ねてくれ感謝する。家族へ電話、盆には一日ほど休むという。

○八月15日 木 晴

今日は終戦記念日だ。日本の政府はあの戦争のもたらした惨劇を何ら反省することなく、今もアメリカ帝国主義の家来となって、再び軍国主義侵畳戦争に盲進している。憂うべき現象だ。何とかしてこれを阻止すべきだ。

○十七日 (土) 雨

今日西川さんの主人が面会に来られて、森晃一さんが腸捻転の手術をしたがよくないと知らされた。

紅岩の小説を読む。感激する處甚だ多し。

○十八日 木曜日 雨

9時より森晃一家の葬儀、町内会長として私の病氣で出席できず、家内は副会長の伊藤さん、会計の源さんと共に葬儀の事を色々と心配してくれている模様。又地蔵盆の事も色々世話をせねばならないのではないかと心配する。

○八月14日 晴 水

紅岩の小説、中国革命の斗士のスバラシきに感銘する。

後太秦の兄さん夫婦見舞い

午前大きな雷鳴と共に大雨降

に来てくれる。安保問題これを七〇年をまたず直ちに取り組んで、全党の結集した力で国民に渗透るべきと思う。夕方キリスト教信者の朝鮮人の体験話を聞き、その熱心な態度に頭が下がる。

○□□□□□ (不明) 幸福の絶頂にあると思うが、一瞬にして悲哀のドン底に落されるを見て深く死を悼むと共に、家族一同健康にありたいと希望する念強し。晚大文字のかがり火を屋上から観迎し、京都の古い習慣を責いと思う。

午後家内が来て世話をしてくれた。夕方君代より電話あり。森晃一さん死亡との事、町内会長としてすべきことは家内と打合せ、家内夕方に帰る。

本来の正しき路線に戻ることを期待する。

りつづく。何處か被害は出ないだろうかと心配する。後から山科の四ノ宮で山崩れにより一家埋まり家族が死亡したとの事。市内浸水の箇所も所々あつた模様。森家の葬儀は滞りなくすんだとの事。一安心。

圭子元気な電話の声誠に楽し。今日も山宣を読む。午後小さな地震あり。今日は何んと悪い日だなあと想う。

○19日 月 晴

今朝、家へ電話をかけ、兎に角森家の葬儀は無事すみ安心してこの頃は地蔵盆の行事にいそがしそお。圭子の可愛い声を聞く。夕方電話したら息子が盲腸で入院。丸太町病院で切開手術、経過順調との事。圭子は太秦に預けられ、君代は付添に行って居る。家は室内だけでいそがしく、店を閉めることも暫くの間は仕方がないと思う。自分は病氣では何うすることも出来ないのが歯がゆい。

小林多喜二の一九二八・三・一五の小説を読む。この当時の弾圧で苦しい経験を今更のやうによみがえつて来る。

圭子元気な電話の声誠に楽し。今日も山宣を読む。午後小さな地震あり。今日は何んと悪い日だなあと想う。

市内浸水の箇所も所々あつた模様。森家の葬儀は滞りなくすんだとの事。一安心。

向かいの子供が病氣で泣いてばかり居る。可哀想でならぬ。医師看護婦が出たり入ったりして居る。午前家に電話をしました。章子と一人で心細そうであった。四郎君は手当が早かつたので経過は良好との事先ず安心だ。夕方電話したら章子を風呂に入れて休むと言つて居た。自分の病氣もう三五日になつた。仲々退院出来ない。四郎君は一〇月末で会社を辞める事になつた。それから店をこしらえ商売することになる。家内は色々と氣苦労することだろ。病氣にならねばよいと希望す。

○二一日 水 晴

家へ電話をかけ君代が出て来た。もう四郎君の所から帰つて居るとの事、四郎君の病状はよく、もうかゆを食べ便所も一人で行くとの事。家内も出て地蔵盆の事で色々忙しいやうだ。

山中君がきてソ連軍がチエツコ首都プラハに進駐したとの二

○二二日 木 晴

一三日急に涼しくなる。安保条約をなくすることをもつと緊急時と思うが、どうしてこれを取りくむのか。老人の能力立場によって全力を傾けなければならぬ事と思う。

抗日戦回顧録（郭沫若）を読む。夕方家に電話する、異状なし。

○八月二三日 （金） 晴

今日は地蔵盆である。私は入院中で家内が引きうけ、副、会計その他大せいの人と協力して貰つてその日は大変だろと思ふ。

ユースを伝えた。（）真相は判からないが重大事件と思ふ。孰れ明日の新聞を見てもっと詳しく述べる事が判るだろ。山中君に私は何千年来人民が眞に主人公となり安定した状態を確立するまでは、仲々困難な事があるを覚悟せねばならないと思ふと話した。

（）真相は判からないが重大事件と思ふ。孰れ明日の新聞を見てもっと詳しく述べる事が判るだろ。山中君に私は何千年来人民が眞に主人公となり安定した状態を確立するまでは、仲々困難な事があるを覚悟せねばならないと思ふと話した。

（）真相は判からないが重大事件と思ふ。孰れ明日の新聞を見てもっと詳しく述べる事が判るだろ。山中君に私は何千年来人民が眞に主人公となり安定した状態を確立するまでは、仲々困難な事があるを覚悟せねばならないと思ふと話した。

○八月二三日 （金） 晴

今日は地蔵盆である。私は入院中で家内が引きうけ、副、会計その他大せいの人と協力して貰つてその日は大変だろと思う。

朝、電話をかけて交通頻繁で道路脇での地蔵盆ゆえ、子供の怪我のないよう頼んだら、中村君を子供を車から守る係に頼んだとの返事で、他も段取りよく行つて居ると思った。夕方電話をしたら万事うまく行つたとの事で安心した。

チエツコの情勢、赤旗にふれようで安堵する。章子はヤンチャヤンチャで手に負えなくなつていいので情勢つかみにくい。

向かいに入院して居る幼児（一年八ヶ月）は未だよくならないのかよく泣くので心痛だ。

チエツコの事は赤旗に一寸も出て居ないので心配。山中君にないやうに。写真を取りだして二人の孫を眺めていつまでも思いを馳せていた。

午後君代が訪れて病院の支払

## 燎原

○八月二四日 (土) 曇

家に電話をかける。家内は皆

と一緒に地蔵盆のあとかづけ

にいそがいしやうである。地蔵

盆のお供へは五万八千円、品も

あつたようだ。これでは相当に

ぎやかなものとなつただろう。

チエツコスロバキヤ国へソ連

を初め東欧五ヶ国の軍隊が侵入

したことにつけ両方の声明の公

文だけ、赤旗に掲載され一切批

判は避けてあつた。

○八月二五日 晴

午後北川商店の店員が訪れ

る。義理堅い精神に感謝する。

連鐸のすべて を記録文をよ

む。感銘する。

午後北川商店の店員が訪れ

る。義理堅い精神に感謝する。

連鐸のすべて を記録文をよ

む。感銘する。

午前益田さんの奥さんが来ら

れ、新鮮な果物沢山戴き丁寧に

お見舞いされた。森晃一さんが

初めて医者にかゝったが手おく

れで命を落としたことを話され

た。

チエツコの問題、日本共産党

がソ連非難の談話を出す。時事

新報その他の商業新聞に讃辞が

呈せられたと聞き、何だか変な

気がする。どちらが正しいか判断がつきかねる。

○八月二六日 (月) 晴

家に電話を掛ける。四郎君は

退院した。手術は早く結構だ

った。家内は今日地蔵盆の決算

書の作成に病院を訪ねる。

森家の葬儀は色々と意見が出

て、伊藤君、宮原君(副会長)

気分を悪くする。

チエツコ問題は自民・民社・

公明党に反共カンパニヤを起こ

させる。彼等はアメリカがベト

ナム侵略している事実を忘れ

て、ソ連へエライ攻撃を向け

る。彼等の本質とするところは

これで暴露されている。大いに

将来の斗争には参考になる。

益がすんで重荷が降りてすゞと

したとの事、よかつたと思う。

午前益田さんの奥さんが来ら

れ、新鮮な果物沢山戴き丁寧に

お見舞いされた。森晃一さんが

初めて医者にかゝったが手おく

れで命を落としたことを話され

た。

○八月二七日 (水) 雨

連日 雨ふり続きで気分は一

般に晴れてない。

○八月二九日 木曜日

山中君を介して民主賸写版を

借りて地蔵盆のビラを刷つた

が、紙がしめつているためかは

つきり出ない。

入しぶりに小山君がおとづ

チエツコ問題につき色々話

した。党員はよほど勉強しないと情勢に處して行けないと思

う。

○八月二八日 (水) 雨

君代は店の仕事に頑張って來

れている。感謝する。病状は一

向よくなつたと思わないので退

院が遅くなるのがさみしい。夜

咳が出て眠れない。

二度大きな地震があった。震

源地は何処だろう。

○八月三〇日 金 晴

朝、家へ電話する。九月十五

日敬老会の相談のため自治連合

会があるかも知れない。伊藤さ

んに代つて行つて貰ふかも知れ

ない。チエツコ問題はもつと深

く研究せねばならない。今後、

党活動は複雑な理論を体得せね

ばならぬことを痛感する。

「小城の春秋」を読み終わる。

共産党員は正確な理論、実践

を身につけなければならないと

思ふ。

○八月三〇日 金 晴

夕方、六時頃、京大医学部の

方で大火あり、ものすごい火勢

で燃ゆ。家へ電話をかけ火の用

心を注意する。民商の会費につ

いて中村さんと色々イキサツがあ

る様だが、はつきりした事が判

らず。

が真剣にとりくみ自主的に解決に向かうよう希望する。

ユーポー・西独、侵畳を喰い止めるには強大なワルシャワ条約機構の軍事力があることは頼母しい。

夜電話で章子の声が幾度も聞こえる。飛んで行って見たい様な気がする。



朝電話で昨晚、家内が町内会長の私の代理で慰霊祭のこと、敬老会のこと色々とがしい事と思う。その上岡本さんのおじいちゃんがなくなつたとの事、町内会副の伊藤さんと河原さんも□には出れない。家内が独りで気を揉んで居る。幸い渡辺伊之助さんが組長に代わつて出てくれるので幾分気が楽。

(以下次号)

はないやうである。

○八月三一日 (土) 雨・晴

今日は三一日、月末の集金日だ。君代は自転車で沢山の集金に廻っているだろう。仲々拂つてくれない處もあって定めし苦労の事であろう。それに突然入院したので集金は色々と工夫のいるところは家の者んには知れていない。定めし苦心するだろ

今から三〇年以上も前、一九六一(昭和三六)年の丹後織物子女労働者の賃金引上要求を中心とする闘争は、教師の勤評反対闘争や安保闘争、さらにこの時期の政暴法反対闘争とも結びつき、丹後地方戦後最大の地域闘争として展開した。この丹後織物闘争の貴重な記録を、筆者川戸利一氏のつぎの文章にあるような経過で本誌に収載することになった。

## | 記録 |

### 丹後ちりめん闘争 (1)

#### 『燎原』への記載にあたつて

この号から記載していただく「丹後ちりめん闘争」は、三省堂が出版した「日本民衆の歴史」地域編シリーズ第十巻「丹後に生きる」の中の一編として、一九八六・七年ごろ書かれたものである。編者の一人原田久美子さんの依頼で、原稿化してお送りしたところ、労働組合の経過報告的な文章であるため、編集者のねらう読物になつてない、女工さん達を主人公にして、物語風に書きなおしてほしいとの注文がつけられ、原稿が返されてきました。第十巻の刊行は一九八七年六月であつたため、まだ一年ほど書きなおす文才がなく、この原稿はボツになりました。

丹後地方にとって最大規模の闘争でありながら、まとまつた記録や文献もなく、闘いの中核であつた網野織物労働組合でも、闘いの記録が保存されていないため、小文ですが、何かのお役にたつものと思ひ、最初の原稿一部手なおしして、掲載していただくことにしました。

共闘会議の中心にすわつて采配をふるつた柴田勝氏や、網野織物労働組合の伝統を引きついで闘つてこられた吉岡千代野さんなど、

#### 一、はじめに

昭和三十六年五月、丹後織物網野労働組合の千二百名の組合員が一律三〇%の賃金引き上げを要求し、三十三日間のストライキで闘ひぬいた。このストライキで織物労働者は二十五%の賃金引き上げと、経験年数による最低賃金保障の賃金体系を確立するとともに、前近代的な労使関係を改善し、市場産業である丹後ちりめん業界の在り方や伝統的な地域社会の仕組にも大きな影響を与えた。

この闘いは「丹後ちりめん闘争」と呼ばれ、現在も折にふれて語り継がれている、丹後地方での歴史的大闘争でありながら、闘いの概要をつたえる記述や報告するらしい情況である。このため「丹後ちりめん闘争」の概要をまとめ、あわせて丹後の民衆史の上の位置づけについても考察することにした。

#### 二、丹後織物闘争の背景

丹後機業に働く織物労働者がめざめ、労働組合を結成して賃金引き上げの要求で闘うことになつた背景は、当時全国的に闘われた勤評反対の闘争や安保反対の国民的

な大闘争と、これに呼応して闘つた丹後地方での教師や労働者の闘いの影響と、六十年代にはいった本格的に始まつた丹後地域での労働組合の賃上げ闘争によるものであつた。

### 昭和三十二年、愛媛県

**勤評反対闘争** から始まつた勤務評定反対闘争は全国的な大闘争へと発展し、日教組は非常事態宣言を発して民主教育を守る国民的大運動を呼びかけた。

丹後地方でも、竹野郡・中郡・熊野郡の三郡教組は勤務評定が教育の中核化をめざす任命制教育委員会法の改悪と、学校の管理運営規則の制定の中で、再び教師に対する権力的な支配と統制をめざすものであり、教育反動化への重要な布石であるとして、連日、地教委や校長との交渉をもつて勤務評定の実施をおこなわないよう激しくせまり、夜になると父母・住民との懇談会のため地域に出て勤務評定反対を訴えつけた。

昭和三十三年の十月、勤務量調査反対闘争で、熊野郡教組柴田書記長以下四名の教師が逮捕される事件が起きた。この事件は勤務評定反対闘争で連携が強まつていた矢先の出来事であつたため、竹

野・中・熊野の三郡教組の連帯と協力共同のとりくみを前進させ、不當逮捕に抗議し、四名の教師の即時釈放を求める抗議行動が連日組織され、この釈放要求に参加した教職員や労働組合員と父母の人數は延一万人に達した。

### 勤評反対闘争や奥丹後教職員組合の結成

勤務量調査拒否による不當逮捕事件は三郡教組に分かれていた組合の大同団結を勝ち取り、専従書記長を置く奥丹後地方教職員組合を誕生させ、丹後地方の労働運動の前進に役立つ組織統一を実現させた。

昭和三十四年になると、全国的な安保反対の闘いにはげまされ、丹後地方でもすべての町に平民共闘が組織され、安保反対の全国統一行動に呼応する地域集会・デモ・署名活動・国会請願者の派遣が取りくまれ、地域ぐるみの闘いとして大きく発展した。

### こうした闘いの賃金闘争

町職、地元労組の連帯を強め安保闘争直後から組織されてきた賃金闘争での協力・共同の闘いを前進させる基礎となつた。

### 昭和三十五年、町職員の賃金闘争

野・中・熊野の三郡教組の連帯と協力共同のとりくみを前進させ、不當逮捕に抗議し、四名の教師の即時釈放を求める抗議行動が連日組織され、この釈放要求に参加した教職員や労働組合員と父母の人數は延一万人に達した。丹後地方の労働者の闘い、とりわけ、昭和三十五年からはじまつた、丹後地域での本格的な労働者の賃上げ闘争は、織物工場に働く組織された労働者も参加し連帯して闘つた。五年間定期昇給を放置している弥栄町での職員の賃金引き上げと定期昇給実現のため、地域懇談会を各区で開き、懇談会に町理事者や議員を呼んで追及し、定期昇給と賃金引き上げを実現していく。自治労傘下の町職員は平均一五〇〇円引き上げを初めて獲得した。自治労傘下の町職員は平均一五〇〇円引き上げを初めて獲得し、その年以降の賃金闘争を定着させた。教組や府職は三〇〇〇円の賃上げ、全通、全電通は三・三の一の半日ストで闘い一三六〇円の賃上げを実現した。

地元の労働組合も、全金日計支部が三三六〇円の要求で二八〇〇円を、丹後中央病院労組は三千円の要求でスト権を確立して闘い、モ・署名活動・国会請願者の派遣が取りくまれ、地域ぐるみの闘いとして大きく発展した。

### こうした闘いの賃金闘争

町職員の賃金闘争も大きな前進を開始することになった。

各町職員労組の結成も、昭和三十五年の十一月に和田野織物労働組合、翌年一月、鳥取織物労働組合、二月、木橋織物労働組合が相ついで結成されたように、昭和三十五年から三十六年にかけて、三津、河辺織物労働組合

後地方での労働者の闘い、とりわけ、昭和三十五年からはじまつた、丹後地域での本格的な労働者の賃上げ闘争は、織物工場に働く労働者の自覚を呼びさましていった。当時、学校の宿直室に教師をたずねてきた織物女子労働者は、時間給二四円の低賃金では、クリームさえも満足に買えないことを訴え、「私達も労働組合をつくって闘いたい」と言い、職場の近代的な様子を語り夜遅く学校から帰つていった。

安保闘争の高揚や地元労働者の賃金闘争にはげまされた織物労働者は自覚を呼びさされ、着実な成長をとげていたのである。当時は教組や地労協の自覚的な活動家は、織物労働組合の組織化のために力をつくし、昼夜をわかつたず奮闘した。

### 弥栄町において

各町職員労組の結成も、昭和三十五年の十一月に和田野織物労働組合、翌年一月、鳥取織物労働組合、二月、木橋織物労働組合が相ついで結成されたように、昭和三十五年から三十六年にかけて、三津、河辺織物労働組合



五月四日、第二回交渉がもたれたが、業者側は団体交渉のルールの設定に終始し、ルールを組合側に強要してゆづらず、最終的には事業主側が一方的に交渉を拒否して全員席を立ち、交渉は決裂することになった。

組合側は網野セツツルメントに帰り、待機している組合員に交渉の情況を報告し、夜の十二時頃から業者の交渉委員宅を訪問し、団交拒否の不当な態度に抗議し、五月六日に交渉をもつよう申し入れ、ほとんどの交渉委員が団交の再開を約束した。

五月六日、第三回目の団体交渉がもたれる直前

になって、業者側から、団交ルールが確立しないかぎり交渉に応じないとする、団交拒否の申し入れが組合になされた。組合側は、岸田組合長、松本副組合長、能勢争対部長、森オルグ等六名で業者代表と会い、団交ルールを白紙に戻して五月八日に団体交渉を持つ約束を取りつけた。

五月八日、第三回目の団体交渉がもたれた。業者側は、組合の賃金一律三〇%の要求は無理でのめないとして、最高の賃金を日額三六円とし、一律一五%の賃上げ

と五%の勤務評定による賃金アップを回答してきた。

この回答に対し、組合側は、一月から、勤務時間が一時間短縮されているため、一五%の賃金引き上げではゼロ回答に等しい。また最高の賃金を日額三三六円とすることは、現在それ以上の賃金をもらっている者は賃金の引き下げにならない。とても誠意ある回答とは言えない。組合側はストライキ宣言を立てたため納得のいかない回答の場合ストライキも辞さないとして次回の団体交渉までに、回答内容を再検討するよう強く求め、交渉は切られた。



五月十日組合は分会総会を持ち、業者側の回答を報告したが、分会代表は回答を不満とし、ストライキ体制を固めて闘うため、二日総決起大会を開き全組合員の真意を問うことになった。

五月十二日、

網野小講堂での総決起集会で、一律三〇%

の賃金要求実現の総決起集会が開かれた。集会には、織物労組始まって以来の八〇〇名が参加し、熱氣につままれた集会となった。大

会では、業者の第一次回答を不満とし、闘争委員会の方針を満場の拍手で承認し、十五日までに組合

側の要求に対して誠意ある回答のない場合、五月十六日から無期限

ストに入りし、要求の実現をめざして闘うこと再度確認することとなつた。

五月十三日第四回交渉はオルグ

團をふくめておこなわれ、業者側は、第二次回答として「最高日額

三三六円の枠の中で二〇%の賃金引き上げをめざす」と回答し、続いて、五月十五日の第五回団体交渉では、「一律一五%の賃金引き上げをおこない、日額三三六円以上に付けて努力する。」と

第三次回答は第一次回答と大同小異のもので誠意ある回答として受け取れるものではなかった。

交渉団は、十五日夜、網野小学校講堂に待機している組合員のもとに帰り、第二次、第三次回答の

報告をおこない、第一次回答からの前進がみられず、一律三〇%の賃金要求に対して、一五%の回答では不満であることを満場一致で確認し、ストライキ宣言をおこなつて、整然とストライキに突入することになった。

(以下次号)

### 領収書にかえて

94号につづいて、この号では、94・3・16～4・4に受領させていただいた方々のお名前を掲載させていただきます。厚く御礼を申しあげます。

『燎原』事務局

市川 駿 向日市  
寺前いわお 西京区  
羽原 正一 大阪市福島区  
田中 篤三 長野市  
高野 源治 石川県羽咋市  
伊東督太郎 下京区  
井上 信子 東京都練馬区  
永原 誠 山科区  
木村 豊子 右京区

昭和20・8・15

## あの日も暑かつた

平成2年 話し手 山本浩治（医師73才）  
 聞き手、書き手 千丸智代  
 （京都女子高生16才）

孫娘の一人に智ちゃんとい

うのが一日、ボクに頼みごとがあるという。四年前のこと。『学級で宿題をもらうた。君たち年若い学生諸君は毎日を楽しんでいたが、六十年前はえらく困難な戦争の時代。この日本が仕掛けた侵略戦争で君たちのジーサンバーさんは困難な異状体験を受られたんだよ。だからその貴重な体験を風化されることなく後々の世にも（不戦平和）の思い入れを語りつがねばなりません。つまりその、大正生れの祖父母さんにその話を聞起こして学年の文集にまとめてあげる予定です。（戦時下・銃後の日々を思い起こして）

平成六年七月山本記

千丸嬢記

昭和十八年十二月五日、戦時下、浩治は幸子と宇治町宇治神社で神前結婚式を盛り上げ、そのまま、任地の岡山県へと赴いた。

浩治の勤務先は、岡山県三菱水島戦闘機製作所という所で、ここは、M型の戦闘機（一人か二人乗りの小型機）を製作している。戦争協力の軍需工場であった。彼は、その勤務医となつた。実戦に役立つ軍医を大量に必要とする時代状況の中で、半年も卒業を早められた。このことは、他の大学でも同じで、兵器の生産者が不足したため、学徒動員法という中学、旧制高校、大学生の大部分を徴用として、兵器増産にあつた。その結果、高等教育の大半が無視され、学力は一段と低下の一途をたどつていった。

ところで、浩治らの新婚の住居には倉敷市水島診療（職員住宅）があつられた。杉を燃やない時代の楽しみの一つである。岡山県下のこんな田舎にまで疎開だろうとの赴任だ。考えが甘かつたか。患者さんから頂戴した魚や野菜は、栄養の補いになったのは事実だ。職場での昼飯は、豆入りのおかゆが毎日で、味覚を喜ばす食事などほとんどないに等しい。家では、きなこ飯が常食で、おかずは、かぼちゃにいも類である。園では落花生とかんぴょうを栽培した。鶏も飼う。とれた卵は、まさに貴重品でたん白源を補う大事な食物であった。

昭和二十年となると、戦況も生活状況もますます悪くなってきた。浩治はひそかに日本滅亡も時たまぬがれた。しかも敵機の数、百四機、天をもこがす大爆風、轟音、大爆撃で、工場は全滅した。翌日、浩治は診療所へ出勤した。被爆現場を見に行く。惨憺たる状態である。日曜出勤の工員の死体の一部が目に入る。土砂をのけてみると、身体が半分にちぎられている。頭がない。

「埋もれた土をもっとどけてみた。」と、同道の修練学校校長が言った。

「や！ これは料治史郎君じゃないか。不運な子だ・・・。」さすがに、後は言葉にならない。さーとなく彼の耳にも入ってきた。そんな六月のある日、時ならぬ轟音が襲いかかる。ごーごー、どろん、どろん。いつもの敵機襲来とは、一回りも二回りも

違う本物の響きである。

「B29の大空襲だ！」

一大恐怖にかられ、「逃げろ、逃げる。」の一点張りである。一家三人ともものもとりあえず、一目散。浩治は、一才の息子を両腕の中に抱きかかえて、とにかく走る。いつのまにか村外れの神社まで來ていた。

（助かった。）

爆撃目的は、軍需工場のみであつて、三人家族の家は、幸い爆撃をまぬがれた。しかも敵機の数、百四機、天をもこがす大爆風、轟音、大爆撃で、工場は全滅した。

翌日、浩治は診療所へ出勤した。被爆現場を見に行く。惨憺たる状態である。日曜出勤の工員の死体の一部が目に入る。土砂をのけてみると、身体が半分にちぎられている。頭がない。

「埋もれた土をもっとどけてみた。」

「や！ これは料治史郎君じゃないか。不運な子だ・・・。」さすがに、後は言葉にならない。さーとなく彼の耳にも入ってきた。そんな六月のある日、時ならぬ轟音が襲いかかる。ごーごー、どろん、どろん。いつもの敵機襲来とは、一回りも二回りも

「山本さん、死亡診断書を書い

てやって下さい。」  
と校長が言った。

敗戦まきわの恐怖の数日間、そのむごたらしい情景は、今でも、彼の脳裏にこびりついて離れない。

ある時、浩治は、憲兵を患者として診察する。

「具合はどうですか。注射を打つておきましょう。ところで、戦局のことだが、アメリカがいよいよ迫って来ようね。日本勝利の見込も怪しくなって来たよ。敗けとちがうか。敗北なら敗北で、この辺で白旗をあげて、降参すべきだ。そうしないと、この日本、人も物も焼き尽くされて、日本滅亡も、目の前に来た感じだ」。

その瞬間、憲兵が急に険しい表情で迫って来た。両者の会話は、一瞬とだえた。

「先生、そんなことはありえません。神州は、絶対不滅ですぞ。シンシユウハ、ゼッタイフメツデスゾ。」

と、懸命に叫んだ。

戦時下、言論の自由は奪われ、言いたいことは何も言えず、軍政のやり方に文句でも言ったら『一寸、来てくれ。』と、非国民として豚箱入りも覚悟せねばなりませ

ん。

遂にその秋は来た。八月十五日。暑いあつい夏の正午、臨時ニュースが入った。天皇がラヂオで何やら話されている。雑音まじりのその音声では、聞きとれない。午後になってようやく敗けたことを知る。

（あー、これで良かった。侵略戦争の大ばくちは終わつたのだ。）

（今晚から、電燈をつけて、ぐつすり寝てやるぞ。）

れでもう帽子があった。日本では、見たこともない光景だったの。十三才の私には、とても恐しく違う世界にいるような気持ちで一杯だった。私は、自分も戦争の悲劇のほんの一部を垣間見たというような暗い気分になった。

（8ページよりつづき）

本会会員の山本浩治氏は山本宣治（「山宣」）の次男で、文中にあるように、現在も京都市内で開業医として活動しておられる。

中村 鈴吾 伊舟市  
細見 明 福知山市  
有田 光雄 乙訓郡  
梶田 富一 西京区  
南江 善兵衛 北区  
塙田 庄兵衛 東京都文京区  
九条診 山本勇治 南区  
片山 康行  
河音 久子  
瀬野 広文  
馬原 郁  
横山蓮生子  
寿岳 章子  
細迫 朝夫  
山口県厚狭郡  
日高 知史  
亀岡市  
向日市  
片山 康行  
城陽市  
大和郡山市  
横山蓮生子  
河音 久子  
長岡京市  
瀬野 広文  
馬原 郁  
左京区  
橋本 雅弘  
西京区  
和久田幹夫  
鶴脚 光増  
大阪市西淀川区  
武田 大蔵  
大津市  
杉本 良雄  
北桑田郡  
与謝郡

戦後、日本の街頭では、戦争で体を傷つけられ、身動きがとれないとつづいてそれに対応する千丸嬢の感想。

戦後、日本の街頭では、戦争で体を傷つけられ、身動きがとれない人達が、市民からお金をめぐんでもらおうと、座り込んでいる姿が見られた。私は、このことを聞いた時、あることを思い出した。四年前にドイツへ行ったのだが、その国のいわゆる傷痍軍人といわれる人の姿を目にした。ひげをはやした、優しそうな表情のおじいさんで、かたいギブスを巻きつけ、包帯でぐるぐるになった足を投げ出し、道端で座っていた。側にね、杖を置き、足元にお金を入れて、ということだろう。

つ。

「物のない時代を生き抜いてきた人間によって豊かにされた日本人の日本人すべてが物を大事にして、編集会や本誌については、奥田修三（宇治市広野町寺山17-1-257、○七七四・四三・一三四七）、湯浅貞夫（京都府船井郡日吉町保野田、○七七一七・二・〇一四六）の両名のいずれかにご連絡下さい。